西丸御小姓組書

二

内閣文庫
番號 和 32503
冊數 394 (143)
函號 121
152

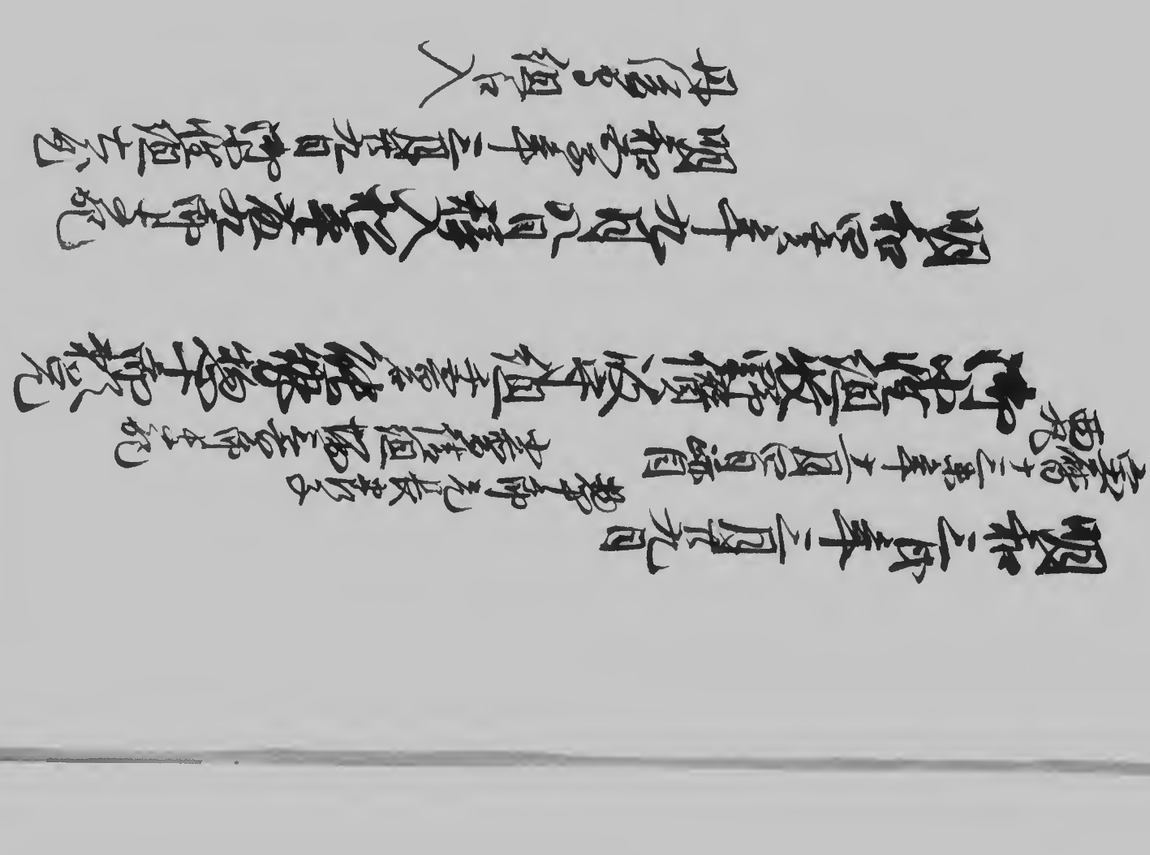
内閣文庫
和書
一五二函一一二架

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

明和三丙戌年三月廿九日　松平伊豫西屋敷
　　十郎信濃有馬家家来死
宝暦十巳年七月廿日病死
　　西尤
市川信濃牧野靭負守組　二名　松平元七郎同断

安永元辰年十月廿八日稲入有馬家家来死
　　寛政二庚戌年四月廿一日死罪九人



国立公文書館
National Archives of Japan

明和三丙戌年三月廿九日

宝暦十二午年十月十三日家督

西丸

御小姓組牧野備後守組　千石　須田多宮盛張

政平支

天明二寅年十月十九日隠居

天明三卯年七月廿三日致仕如水と云

須田長三郎盛昌養子

小姓組松平家より養子

明和三丙戌年三月廿九日　中書記録所西向書記
中書信濃守組　中書信濃組頭兼事帝王記

明和元甲申年十月九日論旨
西丸

御中書信濃守組　中書新番屋敷
番

安永六丁酉年九月十三日大納言殿の
御用に付て呼出しの時服二領
安永六丁酉年十月廿三日西城御番の
ものに道遠に付多病の段申出
西城を退かれて時服三領
寛政元己酉年四月廿八日　那の御くに日光の
御名代として御さる六月二日立と之六月

紀元九月四日
同年七月五日薩州の大船五艘にて表
二艘前の部落より加入を請ひ
今日平安とかゝ得る

寛政十年戊午十月廿七日　西城御中奥御役人
同年三月十六日布衣之者名代
文化元甲子年　月　日　薩州会より引渡
文化四卯年三月廿九日　致仕休番と云

明和三丙戌年三月廿九日
寛暦六子年閏十月三日婚姻
覆　御小姓頭牧野清兵衛
小普請　高名　小普請組　高名
改　普請

明和四丁亥年十月十六日家治公乃
対馬列して得ると
明和四丁亥年七月十八日　大河の名
去の小船　暗礁　対馬口月廿二日　高中に
ちゝ入て　附船と
明和六己丑年四月廿二日　琉球対馬
得物と

国立公文書館
National Archives of Japan

明和七庚寅年十月廿四日長崎の唐人乃
対馬に到りて病死之と傷る
明和八辛卯年十月廿七日大船の唐人乃
対馬に到りて病死之と傷る
安永元壬辰年十月廿三日強対唐人乃
病死之と傷る
同年十月十三日強対唐人乃
三日管中に死して黄金二枚と傷る
安永三甲午年三月八日大船唐人の対馬に
到りて病死之と傷る
安永四乙未年十月八日強対唐人乃
病死之と傷る

天明六丙午年
安永六丁酉年九月十六日強対唐人乃
病死之と傷る
同年十月十日強対唐人乃
管中に死して黄金二枚と傷る
天明六丙午年九月廿日死亡者

明和三丙戌年三月廿九日

宝暦四甲戌年二月七日踏月　十郎帝昌邦卿

西尤　少老中信濃書米年四郎七死

御小性組番頭牧野備後守貞通置名　天野勘解由昌澄

後大和守

安永二癸丑年三月廿七日

若年寄院殿王子乃毛ろく道遠くの所

毛射殿そこ治西城ゆ左そこまて呼服こと

法ろ

安永七戊年九月廿七日西城乃山里にて

大納言様の対ゆ可て呼服こと法ろ

天明六丙午年八月廿四日於秋小月向乃郷

[illegible]
日光山[illegible]
[illegible]七年[illegible]
寛政[illegible]年[illegible]月十二日[illegible]御[illegible]
[illegible]
寛政七申年三月廿日中[illegible]
[illegible]
享和二戌年八月十[illegible]
[illegible]
出[illegible]
[illegible]
さ[illegible]
人[illegible]

[illegible]
日光山[illegible]
文化[illegible]年[illegible]月十二日西[illegible]
文化八[illegible]年七月十七日西[illegible]
日光山[illegible]
文化九申年十二月九日御[illegible]

享和二戌年十月十九日西丸中人[illegible]

日光山十二月十六日布[illegible]
文化[illegible]年[illegible]月十二日西[illegible]
文化八[illegible]年七月十七日西[illegible]
日光山十二月十日[illegible]
文化九申年十二月九日御[illegible]

明和三年三月廿九日

宝暦十二年十二月十日病死

菅沼定景養子

少老信濃書不幸ニ而ハ死

御小性組牧野備後守組

三宝名 菅沼家龍 麗勝

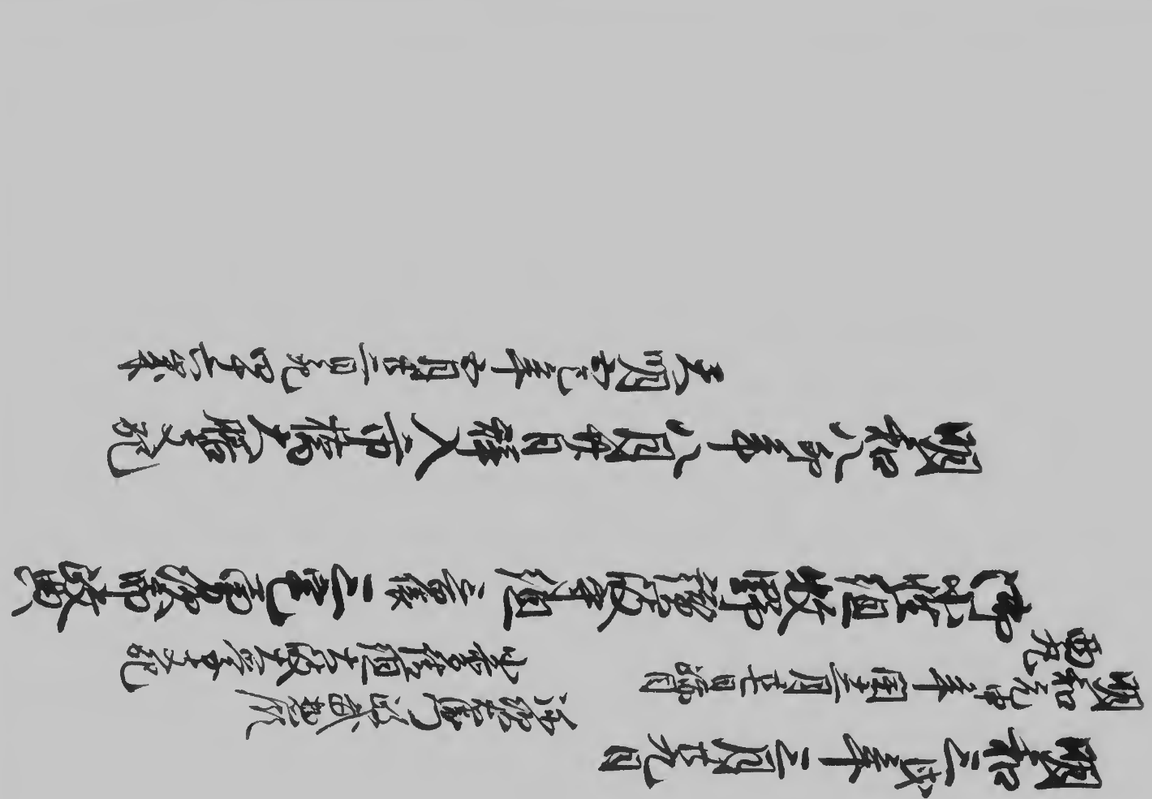
内市郎

明和四年十月十日稲入市郎大脳ヨリ死

寛政元年十月十日割入荷書ヲ受ヨリ死

寛政元年九月十二日 叡剛法院宣下

就位御礼ヲ受ル



国立公文書館
National Archives of Japan

明和六年三月廿日

明和六年三月廿日
西九

御出産祝儀寺社へ御祝

小備後守景利卿
小豊後守泉州堺ニ而死

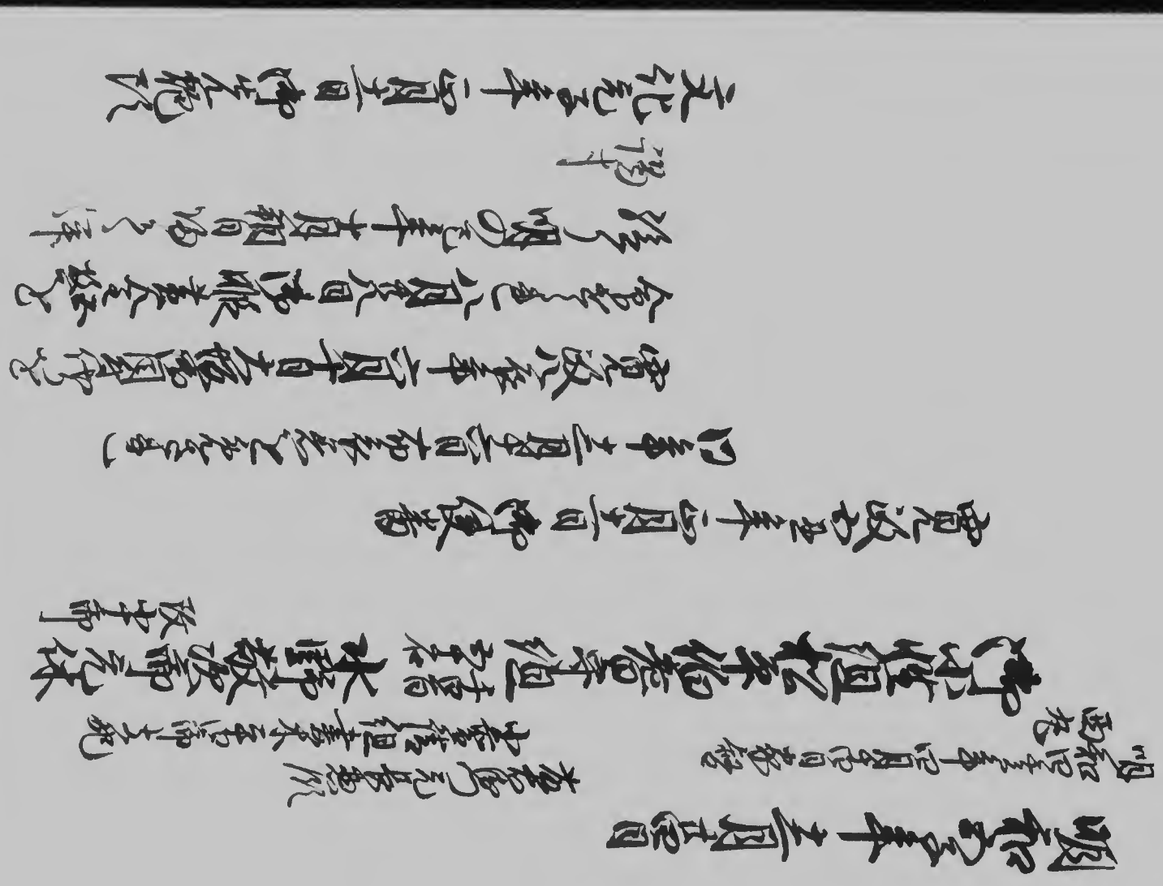
小備後守景房

寛永七庚午年四月十日出産

同年十二月十六日初衣冠ヲ被ル

天明元辛丑年六月廿五日薙髪

天明八申年六月廿八日死 六才七歳



国立公文書館
National Archives of Japan

文化十三年三月五日西條の御結願に

明和四丁亥年十二月五日

宝暦十己未年十二月十九日濟
西九

御出世組松平伯耆守組　名　佐橋市蔵佐如
後長守

馬廻佐太郎子
出世佐組松平采女助之死

明和六己丑年正月五日市ヶ場姫の射
るを別して時服を給ふ明の旨宣中に
なりまして黄金三枚を給る
日光三月十九日大納言殿の射るに
別して時服を給る
明和七寅年十月五日大納言殿の射に
別して時服を給る

明和八卯年四月十日沖ち陽姫の射ふに
列して拝服仕る明の十二日宮中より
百さまて黄金二枚を賜る
同年十月七日公儀御使竹て陽姫に
安永三午年四月十日沖ち陽姫乃射
ふに列して拝服仕る明の十六日
宮中に百さまて黄金二枚を賜る
同年四月十日公儀御使竹て陽姫に
同年八月十日西城中く渡乃御殿に
渡らせられ拝服仕る
百さまて黄金二枚を賜る
安永七申年九月十二日大納言様の射ふに
列して拝服仕る
安永七戌年九月七日西城の山里にて
大納言様の射ふに列して拝服仕る
安永九子年十月三日吹上にて大納言様
の射ふに列して拝服仕る
天明元丑年十月八日日光に年九月廿日
同八申年二月十二日大納言様の射ふに
列して川さきに拝服仕る

天明八申年十二月廿三日御中陰済て
同年同月廿八日布衣を免さる
寛政元酉年閏二月十九日日光奉行
同年七月朝日御服黄金拾枚二

明和と改元し諸国給事に長門守と改
寛政二庚戌年七月朔日 京都より
法令一紙を渡る
同年十月十日 御城美濃守殿 御城
明和と改元 諸国改元御用を務め
寛政三辛亥年十二月十日 京都より
法令一紙を渡る
寛政四壬子年閏二月八日 御勘定奉行
同日 賦用をつとめさせ候儀
且日光の御用を務むべき儀を
同年九月廿日 東海道甲州川々の
修築方御用を命ぜらる

寛政五丑年三月十二日 京都より
六月十七日 諸国荒井宿祐金等に
別荒井宿祐金等に
同年九月廿三日 諸国川々修築方
事ならびに堤防の作成
寛政六寅年閏十月十日 布施口乃
邸新たに
寛政六寅年九月十二日 稲葉合の別寺
寛政七卯年二月廿七日 三尾山の寺
稲葉相模の邸に
奉行勤める間小菅御殿うけ

[illegible]

寛永十年　月　日　年　才

寛永十九年　月　日　御先ヲ以

寛永十年　月　日　御普請奉行

文化三寅年　月　日　西御御留寺社

文化六巳年　月　日　御普請奉行

文化九申年　月　日　年　才

明和五子年十二月　日

明和五子年八月三日　西丸

御普請組　松平伯耆守組　十人

桜南寺三門石積　長さ　巾　高さ

山蔵院弾正橋　長さ　巾　高さ

安永三午年三月十日　山岸白山乃

水戸ゆく同所の郷村ゆく

天明六午年七月十日　山岸伊豆院

東ハ　ちの郷　水戸にあり　行ク

今ハ　ちの　と　使ル

寛政元酉年六月三日　死　才三年

明和四年十二月晦日

宝暦十二年十二月八日薨

西尤

中山修理大夫藤原伊長卿

三条水無瀬殿

山蔭修理大夫藤原伊長卿

正二位

久我建通公卿

改又助

安永二巳年三月晦日大納言久我建通の射ゐに列して吐血ことあり

安永八亥年二月十日西條の山里ゆく大納言久我建通の射ゐに列して吐血ことあり

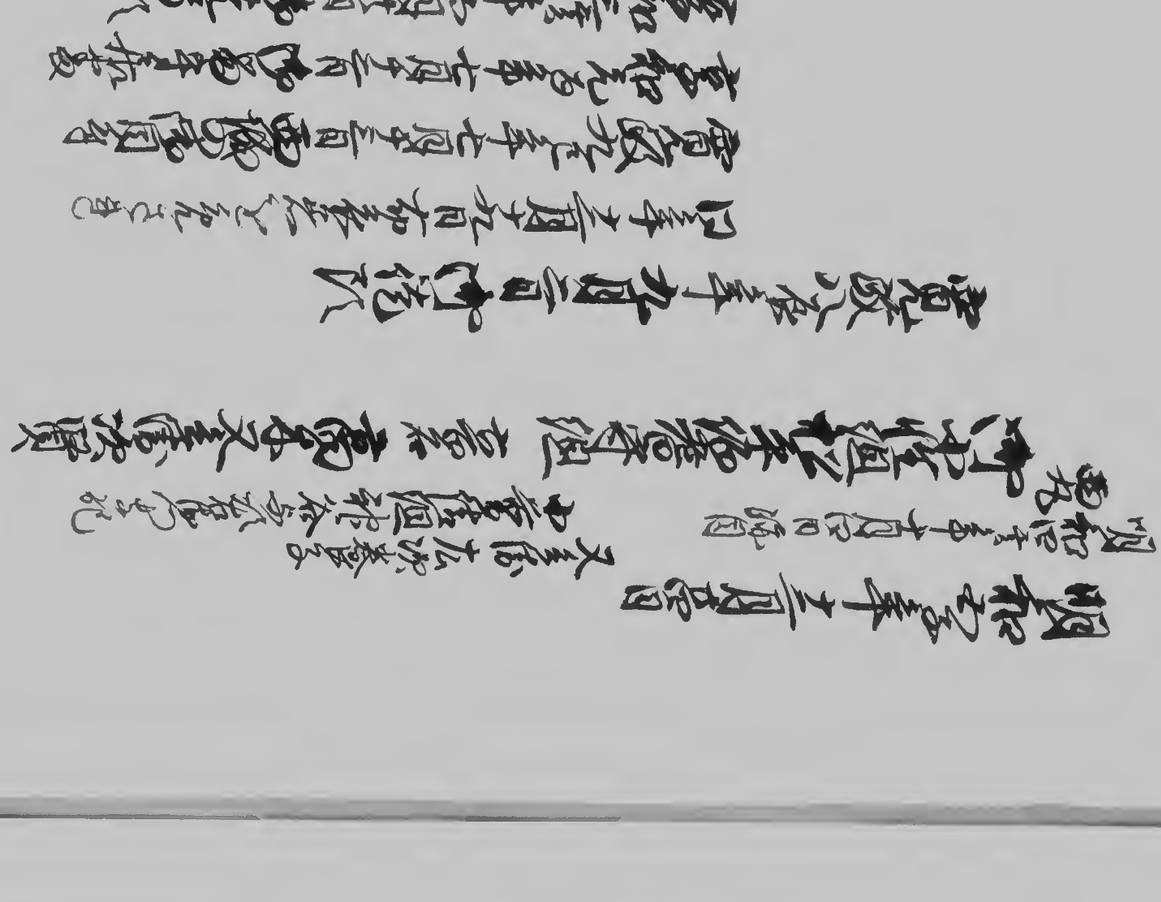
同年十月十八日清の使者ゆく乗馬

大納言久我建通

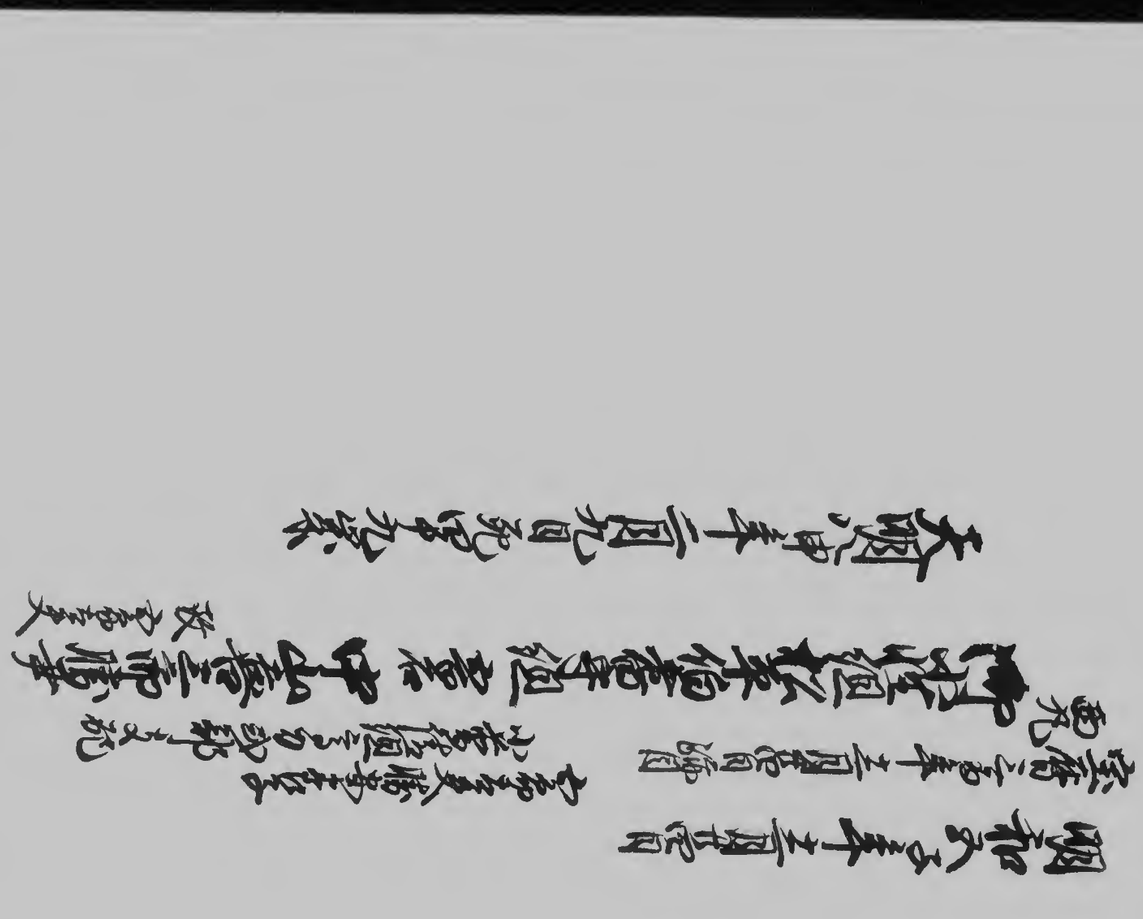
天明六年十二月十二日卒去のうちに

[illegible]地獄水[illegible]金百疋
[illegible]
寶永元年九月廿三日西馬場[illegible]
寶永三年二月廿四日上屋敷にて
[illegible]銀[illegible]拾貫目大荒猪馬[illegible]
[illegible]と[illegible]
寶永四年九月十日飯[illegible]
[illegible]
寶永七年三月廿四日中[illegible]の[illegible]
[illegible]馬[illegible]
文化三寅年十二月廿八日西丸[illegible]

同日[illegible]
文化十四年　月　日死亡[illegible]



国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

明和六年十二月十四日

三平師忠死歟

宝暦十元年十二月六日歟

西光

山名左近将監祐豊子死

加賀守従五位下伯耆守従　高名　宗川台右師忠盛

安永元年十二月十八日　辞入道三平師之死

寛政十年九月十四日　歟仕

明和六年十二月廿四日

一学高英卷子
山吹作組袋朱三帝之死

明和二百年八月廿日崩御
西九

御出世組松平伯耆守組　高名　京極秀高卿高晩
後妻ノ舅

安永四年十二月廿四日　稀入石河吉伯守之死

寛政二戊年十七月廿九日　致仕

明和四年十二月吉日

明和二丙子年十二月十六日 西九

中宮御組松平伯耆守御組 番名 石見 弦三郎 在廣

後伯耆

安永九庚子年七月十二日 稱入 牧野周四郎 死

天明元辛丑年十月十八日 死 年九歳

国立公文書館
National Archives of Japan

明和四年十二月吉日

辛八郎賢隆当番

出雲信濃有馬筑前守

明和七寅年九月官帳

兎

御出役組松平伯耆守組　三番隊　惣松平藩二員

明和七寅年閏十月吉日　藩入神尾若狭守殿

天明七未年十二月組員宮谷喜助

郷帯中藩の郷の間と言ふ〳〵の内

吟味に〳〵自殺に〳〵数人有

られ八月の二日に〳〵者共〳〵と伺

出さるに八月十九日に〳〵

官位元日年閏十月吉日数仕

寛政九年十月廿八日九ツ半ヶ日

安永二年二月十二日

宝暦十二年辛未六月三日誕生

西九

御書組松平内匠頭

内匠長矩文書

中書信濃青山幸侯

二万石

出羽東松山藩

政九郎

主膳

安永四年十月十二日名乗

天明二寅年六月十四日大阪御城番

命ゼラレ十月廿八日御服美濃ヲ拝ス

明ノ年四月朝鮮ノ使渡

天明四辰年四月御使書

月三年十二月十八日布衣ヲ許サレ

天明七未年三月廿四日関西巡検使

[illegible]十日九列[illegible]
[illegible]

寛政元年二月廿日[illegible]
阿波三郡[illegible]
巡視の用向[illegible]

寛政元年七月廿日[illegible]
[illegible]村達磨山龍光寺に送り入也

安永二乙巳年二月廿三日

安永元辰年[illegible]月廿三日[illegible]
西九

御小姓組松平内匠頭組　千石　大久保淳五郎忠移
　　政八郎[illegible]

[illegible]年十月廿九日[illegible]物[illegible]の[illegible]に
[illegible]

安永六酉年九月十六日　瑞[illegible]
　　[illegible]

天明三卯年十月廿日[illegible]
[illegible]
西[illegible]

寛政元酉年六月廿三日大猷院様
ゟ仰付られ七月廿八日御瀧英全坊
八月廿三日夜ゟ五大院ゟ寺〻被
都の　宮方御移家堂上方人〻の
家料御番衆且寺院の御用所等
ゟ申付さる〻諸国代御城代ゟ渡
明の戌年三月廿八日返翰到着仕候

寛政三亥年　四月廿三日　御使書

日光年九月廿九日明上御使ゟ被
対御発ゟ〻〻ゟ伺ふ〻仰ゟ
蒙り菊の間ゟて御面明ゟ被成
候〻

日光年十二月十二日　御発ゟ
寛政九巳年九月廿九日高田馬場
ゟ〻　鉄砲御発ゟ〻
日光年四月廿五日明上ゟ〻ゟ馬
御発有〻〻菊の間ゟ列て御面
明ゟ被成候
寛政十亥年七月晦日　御発有
〻〻ゟ〻の仰付ゟ付て瀧
英全坊　時服ゟ被候日光廿五日ゟ
ゟ十二月十日迄〻ゟ御発有

国立公文書館
National Archives of Japan

安永二乙巳年二月十三日

宝暦十三癸未年八月廿日婚姻

西丸御中臈組松平内匠組　名右　小笠原信濃守政幹

政敬官

少笠原政長地所

少笠原組百石

天明七庚申年十月廿五日稱入水野大隅守忠

寛政四壬子年十月廿五日下谷池の端の

中屋敷へ隠居仰付れ部屋住

うつる

寛政十子年八月廿九日致仕

享和二壬戌年十月廿六日御暇願ひ元方南と云

安永二巳年二月十三日

宝暦八寅年十月晦日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

安永四未年四月朔日

寛政元酉年八月三日致仕

寛政七卯年六月廿日死亡家

国立公文書館
National Archives of Japan

寄永元年二月廿三日

寄永元年十二月七日新番
西丸

御書院組松平内匠頭組　寄合　清水隼人命之武

後法名

寄永三年八月廿三日　辞入後寄書之部

寄永四年七月晦日　御書院番組
西丸守組入

安永二乙巳年二月十三日

昭和二百年十二月吉日 濱口源門

御小性組松平内匠頭組 岩名 河野源兵衛通虎

（古希右馬ノ通周養子 出奉仕組岩野弥代支配 改ル 昭和 岩名）

安永四申年二月十四日 跡入 徳山五郎左衛門支配

天明元年九月六日 濱口源門

源七郎 源兵衛 内匠殿 ヲ以 御番 ヲ 勤 ル

有之 ニ 付 ハ 落 ル

寛政元酉年 閏二月十九日 御免 跡 世伯

五級 勤 ル 内 ニ 病 ニ 付 ル ニ つ き よ り

寛政六寅年 何月日 世伯 五級 ヲ

まあつまの石衛士佐野之死亡入
寛永廿年十月廿九日教仕

寛永二乙亥年二月十三日
寛永十九年十二月晦日
西丸
御徒組松平内匠頭組　番衆　新左衛門義重
改六郎左衛門
出羽信濃守忠直卿
寛永四年四月廿日病入高野中ノ子之死

安永二巳年二月廿三日

明和五子年十月六日跡目

西丸 御小性組松平内匠頭組

弟切正内養子

小普請組神尾若狭守支配

三百石　土野御兵正倫

同二十俵　改勤書

安永七戌年九月廿七日西丸の山里より

て大的御徒の射るに引して日脛に矢を得る

天明六午年秋深川の邸水害より

金三十両を拝借し得る

寛政九巳年十二月廿二日深川の邸類焼

火事かゝる

寛政十午年三月廿三日死　四十四歳

寛永二乙丑年二月十三日

源義馬長泰書之

出雲佐組有馬家文書之内

同和八年壬申年九月七日写

西尾

御小性組松平内匠頭

三番隊一色左衛三郎昭為

法九郎

天明四辰年十二月廿九日

藤入水野大膳之内

寛政四子年十二月十九日

敦仕部書之内

〜〜〜〜韓梁〜〜〜〜

安永四乙未年七月三日　　[illegible]

安永四乙未年十二月八日[illegible]

[illegible]

[illegible]

安永八己亥年八月十八日[illegible]

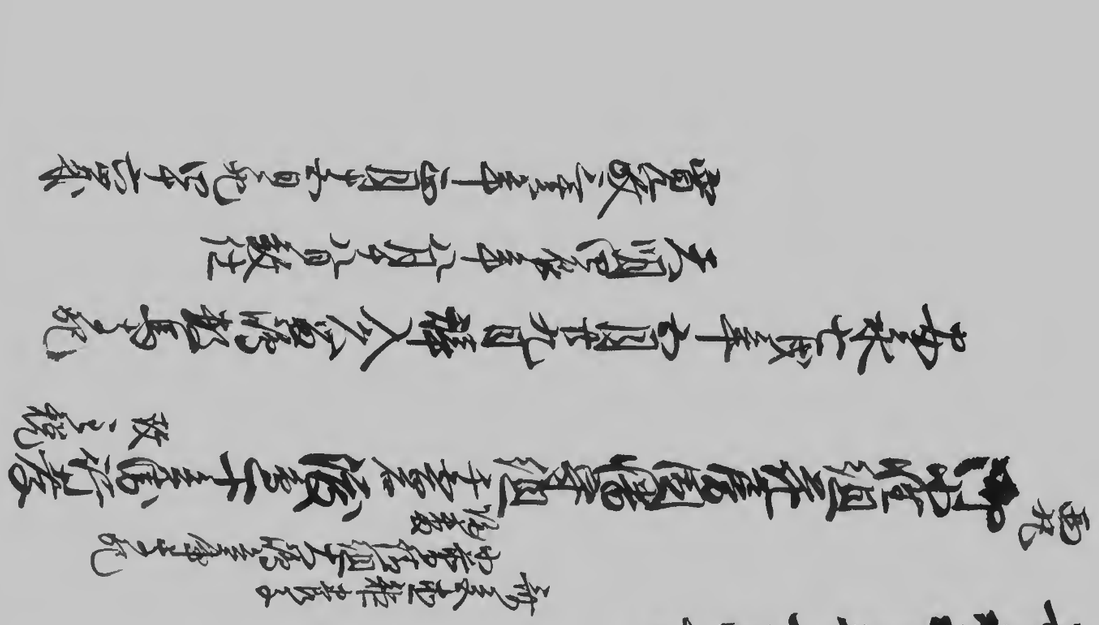
て[illegible]

[illegible]

[illegible]

文化十四丁丑年三月六日　西丸[illegible]

同年十二月十六日[illegible]



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

日本年十月八日大納言綱の射山に連る
時服二を賜る又日吉年四月廿六日
長事始めらる時服二を賜る
天正元年九月廿六日富樫治部大輔
賜ふこと
天順元年三月十日弱薗野ゆく
弱射市場始めらるる賜ふこと
天順六年四月十日浦の射
場に列して時服二を賜る明乃十二日
宮中まゐられ黄金二枚を賜る
日本十二月十日大納言綱の射に列
して時服二を賜る

天順七年十月十日弱射市場始めて
明の十日百ゑまして黄金二枚を賜る
寛政元年三月十七日大納言乃
射場に連る時服二を賜る
日本十二月十九日弱射市場始めて賜ふ
こと
寛政二戊年九月廿日より因幡て乗馬
市場始める
日本四月廿三日大納言乃射場に
列して時服二を賜る
日本十月廿六日浦射場に列をしめ
まして伯倉野駒を賜る

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政三庚子年十月十日瑞祥院様御
病の八月頃より御食事不
寛政四壬寅年四月朔日より九月
御病気に付御断申上候
寛政五癸丑年四月九日瑞祥院様御
病相成候
同年八月七日吹上の御庭御
御覧被遊御
寛政七乙卯年三月四日大御所様御
隠居被遊
同年八月十四日瑞祥院様御病相成
候

同年十月廿八日より千事有て明
九日百ばかりして薨去仕候
寛政八丙辰年四月十日御御病気有て
隠居仕候
寛政十午年三月四日大御所様乃
対面の列にて出仕仕候
同年十月廿一日瑞祥院様御病の
廿二日百ばかり薨去仕候
寛政十一未年六月廿四日又千事
出来隠居仕候
寛政十二申年六月六日大御所様御
大命を以て七月廿八日御服薨去仕

偽り明の万年十月朔日迄偽り
享和二戌年　月　日踏付法度有て
明の日百さんさん黄金之如と偽る
享和三亥年二月廿一日　事乃門て
偽物之と偽る

安永六申年七月三日
安永四未年閏十二月六日済
西丸　御小性組花房周防守組　千石　梶乙右衛門常
第ゝ廻り西郷書
小普請組徳山五三郎高之死
改四弟三傷

天明三卯年二月廿八日死　三十一歳

安永六甲申年七月三日

安永六甲申年七月三日御誕生
西九

御小性組花房周防守組　立花柳原橋立帝實秀

中奥御小姓　秀之　書る
中奥御小姓神尾主殿守支配

安永七戌年九月廿日西丸の山里に為
大納言様の御供に列して吹上に至る
安永八亥年十月廿日廣尾の屋敷に
道達しの為に付て御暇を賜る
當中に左遷に付暇を賜る

寛政四子年十二月十八日死　三十七歳

安永六申年七月三日

安永四未年閏十二月十五日踏月

西丸御小性組花房周備守組　三番　川口富吉長都

浦口帝長逸　橋帝義組

中嶋信組　富野和代之助

改　聊帝

浦口帝

浦春雄

安永七戌年閏十九日　稀入浦康邸之助

天明二寅年六月十四日　中性組　白須

甲斐文吉組口帰参

安永四年七月三日

安永三年十月晦日　市蔵新組番頭
西九　小性組花房周幡守組三番俵　紙屋大和紙弘　改市蔵

同年十月十日草履市蔵乃刑に
列して猶予に付る

安永八年八月十八日濱の市蔵中
番馬市蔵所

同年九月十八日第廉市蔵の刑に連
て猶予に付る

天明二巳年九月十四日第廉市蔵

文化十四年

乃対馬に到りて猶和に交を偽る

天明七年二月長崎奉行所清兵衛

対馬に加担して猶和に交を偽る

寛政三年十月長崎奉行所武清兵

衛猶和に交を偽る

寛政七年三月十月大金屋清兵衛の所

為行懲ると勢む

同年十月八日朝鮮清兵衛の対馬に

遣りて猶和に交を偽る

年九月十九日長崎奉行所書簡に

同年十二月十六日布長崎と為す

七月二百石病死被
安永四乙未年九月十八日　　浦賀与力定町奥役
　　小笠原組牧野伝蔵支配
明和三丙戌年八月二日婚姻
西丸
御小性組元房周備守組　三百俵　安永八己亥年小定高
　　後浦賀
安永六丁酉年八月十六日帰入中之条長左衛門支配
　　寛政三辛亥年十二月廿五日浦賀小性組他石
　　伯耆守組ゟ入

寛永四年十二月九日

西九

御小性組花房周防守殿

新番頭天野周防守忠邦殿

後に寛永七年一月改名

三河守忠宗

寛永八年八月十八日深の御鷹ゝ

寛永二年九月四日高田馬場ゝ

寛永四年四月七日家綱十五石宗見

寛永八年の三月信濃ゝ老を患ふ料ゝ

寛永七年三月四日大御所御病のとき

延徳をつたへん

享和二戌年七月十日　御小納戸

同年同月十七日　西丸の御小納戸

同年十二月十六日　布衣をゆるされ御奏者

安永五申年十二月十九日

御先祖政山善信禅寺武第奉書

西丸御小性組番頭清水備後守　三百俵　小普請金子市郎兵衛

後子五百石　役料百俵

天明二寅年六月七日　踏月五百石に

この三百俵ハ、〜奉る

寛政八辰年九月廿八日　大納言様ゟ

対馬に列して時服二領

寛政九巳年　四月十日　御使番

同年十二月十八日　布衣をゆるされ

寛政十午年四月七日　大番頭に

国立公文書館
National Archives of Japan

為へき仰付
享和二壬戌年 二月廿五日 大事備ふ品ふと
為ふ事と存さる

享和三癸亥年 六月四日 大隅清周名代りを
命ぜられ 七月廿八日 市服美令極と
仰つけの事 十月朔日 向て発
船す

文化四卯年 六月四日 帰国 先国
紙事為あきハ 出さるの仰と蒙り
六月六日 市服 黄令拝 附紙と相減
仰つけ 十月十日 向て発船す
同年十二月十日 来春 帰国 出用

こして出さるの仰と蒙り 明の年
四月廿日 市服 黄令拝 附紙と相減
仰つけ 九月廿日 向て発船 三月
廿三日 富中に立られて 帰国の用
と存ぜられて 黄令拝と仰る

文化五辰年 十月廿日 西海の清周名
文化九申年 三月八日 市周名

文化十酉年 八月廿九日
御屋敷中 係市蔵市周と命ぜられ
十月十日
竹内代 右 御屋敷の市周と存ぜられ
て 附服と仰る

文化十四年二月十六日左ノ者共
ニ為陽ヲ〻流謫馬の法用之儀
ヲ〻以被ニ之為
文化十三丙寅年二月八日御奉行
同年十月十日右服部民部殿以被ニ
明盛之為ヲ〻被ニ仰付ニ敬寿院様御作事
之為ヲ〻以也

寛永六巳年十二月十九日

西九

御小性組花房周防守ニ二百俵

小林主殿長豊

改左衛門

同日勝の内百俵之内ヲ〻以ニ父知行
廣高ニ二百俵之儀ヲ願ル

天明六午年二月十二日父知行之内
渡ル之儀ヲ願ル

天明八申年十二月二日死ニ子九歳

安永六丙申年七月十日

霊

御小性組花房周防守

霊雲院書簡幷御小性組幸之助長美養子

三百俵　三好吉兵衛長具

後七百石

安永七戌年九月廿七日霊的御稽古

射ゝに到りて御物ニ成ル

安永八亥年八月十八日濱の御殿中ゝ

乗馬御稽古

天明元丑年二月七日中間黒の者ゝ

遠島ゝ被仰付ゝ候ゝて

ゝ射留ゝ月十日當中に成ル

時服三を賜る
天明三年十月廿日源内七百石毛利の
三百俵八つ〳〵奉る
天明四年二月廿三日三百匹馬場を
乗馬御免仕り
寛政二庚年九月廿日三百匹馬場を
乗馬御免仕り
寛政四壬子年三月七日大納言様乃
射場に列して時服二を賜る
寛政七卯年三月晦日小金御狩乃
ゝ紀伊殿馬を勢ひ
文化元年八月八日死亡九歳

寛永七庚午年七月廿九日
西丸
御中奥御花房図書頭
大番組阿部豊後守信祥妻
法号百石
三俵 同宮内少輔信義
法号百石
寛永八辛未年八月十九日家の御厩御
ゝ〳〵乗馬御免有り
天明四辰年四月廿三日大納言様乃射
場に列して時服二を賜り
同年九月廿九日西城にて源の御厩
源〳〵〳〵御馬供ゝに候して
射場にて十月三日西城に召されゝ

附版之ことく傷る

天明七丁未年十月廿日暴風ニ而

二百俵ハ〆〆〆〆

寛政二庚戌年九月廿日高潮ニ而傷出て

棄馬沖縄ハ

安永七戌年七月十九日

西九

御小性組花房周情守組二百俵ニ而

大島黄組民部月八郎兵衛

在番

同月廿六日暴風ニ而

百俵之内〆〆〆〆

同年九月廿日雷鳴沖縄の村々に

列〆て傷ル

安永九子年二月廿九日琉球沖縄省て

傷ル

同年十月三日大鳴沖縄の村々に列〆

附版之儀

天明二寅年十月九日跡祢市郎兵衛

跡目之儀

同年十月二日跡祢市郎兵衛

三日晴中に家督之儀願之儀

天明三卯年十月十二日 [illegible] 死二十八歳

安永九子年十月九日

御小姓組元房周情手組 百俵 安生次郎八武定

[illegible] 山崎半組

後百石俵

同日父市郎兵衛跡之儀役料迄八ツ人

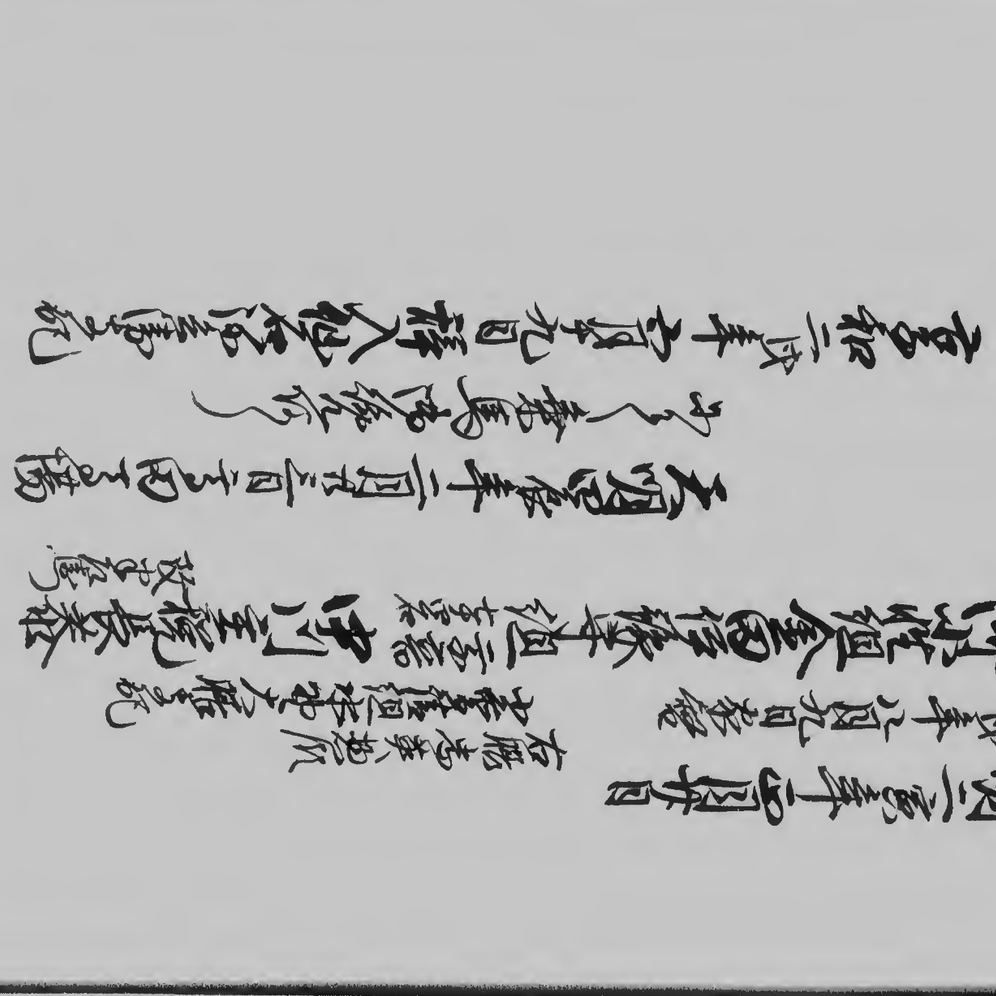
市郎兵衛と名乗る 誓の内百石俵

跡目の儀仰付

天明二子年六月廿四日 [illegible] 百石俵

跡目之儀願之

天明七未年十月廿六日死 三十三歳



国立公文書館
National Archives of Japan

天明二巳年二月廿日

安永元辰年十二月晦日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天明六午年二月六日出奔仕[illegible]

[illegible]

寛政二戌年十二月廿三日稼入[illegible]

寛政三亥年七月八日死[illegible]

天明二寅年二月廿日

天明元丑年六月六日病死

西九

河内性須金田伊豫守組　高石　幸間張帝親豊

改　年人　隠居

年人説革無所
中奥守伊組新井信濃守記

天明四辰年二月廿三日六間ヲ隔テ隣ル
ヲ出ス所焼ノ事ハ
寛政三未年九月廿日大的所焼失ス
附脱ニ付ノ儀
寛政四子年二月廿三日一橋ノ御殿ヲ
焼失ス此ノ時分ニ対馬守殿ハ
官中ニ居合セテ附脱ニ付ル

寛政七卯年四月十九日武術出精之旨ニて
褒詞ニ及ことに備る

天明二寅年正月廿日
明和六丑年四月四日番附
西丸
御小性組金田伊豫守組
内分元能弟出凪
小普請組弓削田根隆喜支配
高百石 豊村三平 能泰
致
同勘之
順在候

天明六午年十二月廿七日宗家地相續願の
不勤
自今年ゟ御番入ル全合ゟ無之ゟし候る
天明八申年二月十二日大御番衆の射
手ニ列しゝ時服ニと備し
寛政四子年十一月廿二日麻布の火事ニて
宗家御廐同ふの御類焼ニ付かくして後
金三千両ゟ及こと致し候る

寶政元年八月七日ゟ高先寄ゟ
切り新馬傷ゟ〳〵ゟ
金ゟ〳〵ゟ〳〵ゟ
寶政七申年三月廿日ゟ
附証馬をつゝむ

享和二戌年七月十日 南中御ゟ

天明二寅年二月廿日

安永三午年十二月廿五日 御
西丸

御小性組金田伊豫守組 高石 稲垣法之丞

後法馬

寶政元丑年十二月十二日 稲入酒井紀伊守ゟ

天明二寅年正月廿日

寄永七庚寅年六月廿七日
西丸

御小性組金田伊織守組　高名　南部遠江守殿

寛政七卯年三月廿六日　大番頭格の儀

御行懸りをつとむ

享和二壬戌年七月二日　御入御表右筆被仰付

同年十月廿日　数仕

天明二寅年四月廿日

朝倉筑前守信鴻養子
出羽守信長公川利十郎上洛

天明元丑年六月六日晩
西丸
御中臺様金田伊豫守様
三宮様
朝倉筑前守信清
内藤信
改新十郎

文化四卯年二月四日死四十六歳

国立公文書館
National Archives of Japan

天明二癸丑年二月廿日

安永九子年九月廿五日
西丸

御普請金四位御修理組　三番長　塚数馬秀繁

宇都宮興業
山崎信濃　本郷信濃守元
改名

寛政三亥年十二月廿一日一橋の郭
和口の石垣つくろひ落ち所小雨二間対
元文四巳年十月廿七日石垣ひくつて附直しを仰る
寛政七卯年三月廿日大雨にて
歩行難きとつくむ
寛政八辰年十月二日大雨洪流の村
々より到て附直しを仰る

天明六丙午年　六月廿七日

西九　御中臣須今高信様ゟ須　九右衛門殿ゟ陳人ゟ孫ゟ悪流列

聊ゟ之流貴様ゟ

系図　小笠原信濃守様ゟ聊ゟ

寛政四子年十月廿五日　稀入信濃国攻郡ゟ死

寛政四子年　寛政四子年　寛政四子年

天明元年八月十七日

天明元年十月廿日海内
西九

御小性須金四郎信豫守須九郎右衛門松三郎忠征
政信等

寛政二年二月廿二日大納言殿の
対ゆに列して時服二を賜ふ

寛政七年三月二日大名席詰の時
歩行御免をつとゝ免

同年十二月廿七日海内殿に出ゝ
らるゝ時も対面同時に出る
ことゝて時服二を賜ふ

天明元年八月十七日

天明二巳年七月晦日

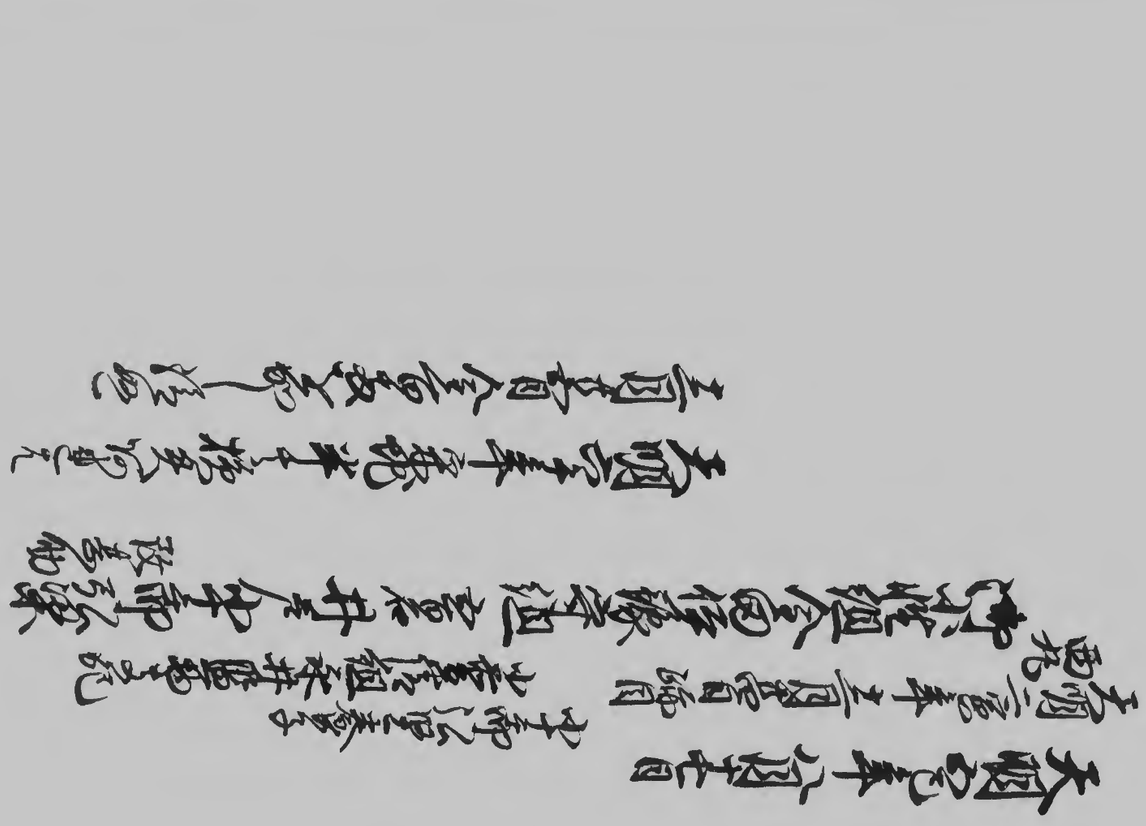
西丸御小姓組今西伊豫守殿言右藤平主馬稠昌

[改之]

寛政四子年八月十六日主馬儀ハ
于銀清兵衛方ニ而ハ
寛政五丑年八月七日ハ
清兵衛方ニ而ハ
寛政七卯年二月晦日中全清兵衛の時
証跡馬ニ相勤ル

[右]

[寛政二子年稠昌[illegible]
中全伊豫守言右之[illegible]
[illegible]]



国立公文書館
National Archives of Japan

天明元年　酉七月

南条六郎左衛門尉

西九

御小性組今西伊豫守組　大番　松平左兵衛尉　改十番

寛政二戌年九月　日　三番馬場山城守

寛政七卯年三月　日　大番　馬場山城守

享和二壬戌年七月二日　被入　年寄　奉行

文化元子年十月　日　勘定

天明元辛酉十月十七日

安永六丁酉年十月廿日歿

河内守源金四郎信濃守源昌三郎長

酒依内匠頭昌氏

酒依掃部助昌氏

小堀信濃守勝桂ニ加文死

寛政七乙卯年二月廿日歿 三十七歳

天明六丙午年 付八月七日

仲西鋒太郎

昭和二拾年十二月十六日濟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛政七卯年十七月十九日 [illegible]

天明元丑年八月十七日

天明元丑年十二月十二日始日
西丸

御小性組金田伊豫守組三宅儀

梶九郎久寄養子
小普請組水野大膳支配

芦谷勇之助久豊

改 梶九郎

天明七未年十二月廿日 御免書

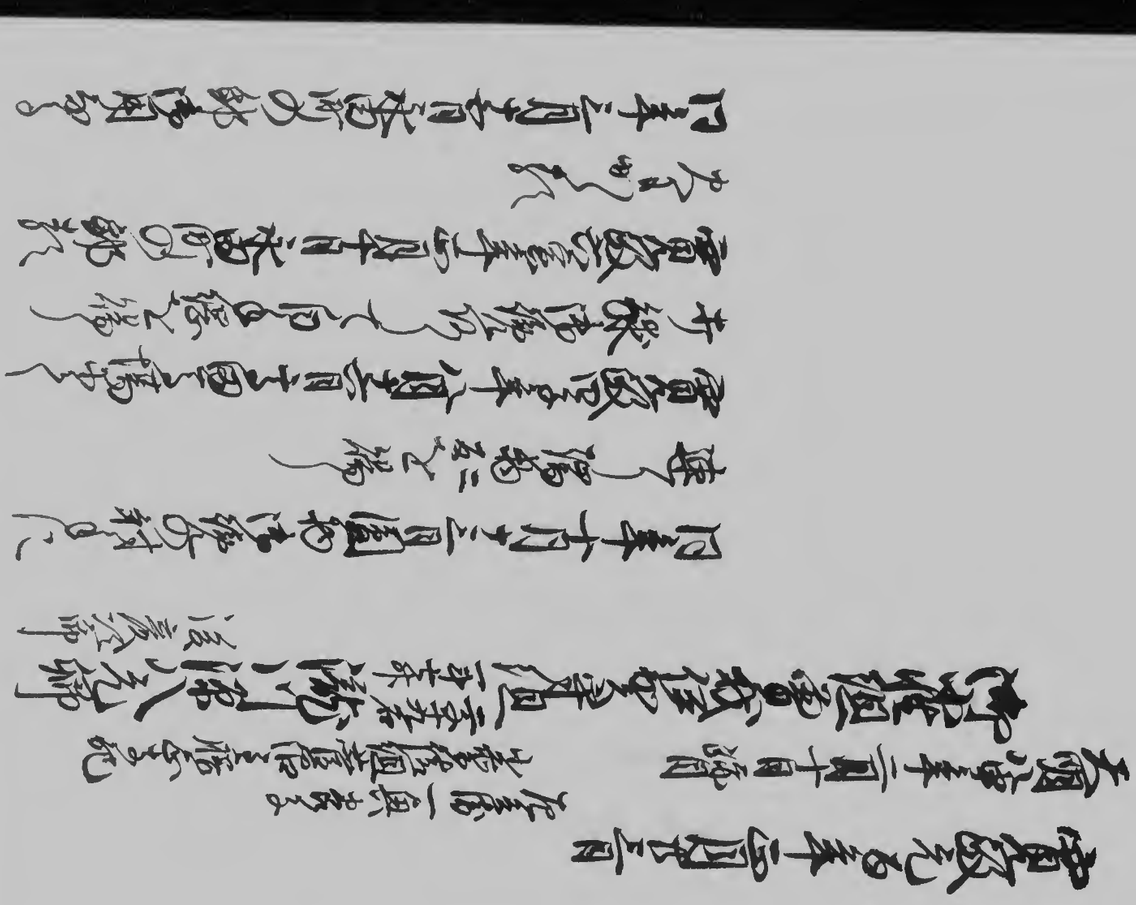
寛政元酉年十二月廿七日一橋民部卿へ齋

出もの二付法住寺に候して鴨羽射致

四月晦日営中に召させて此段三を請

別日方何事も射致手柄ありとの御ほ

め乃仰を蒙る

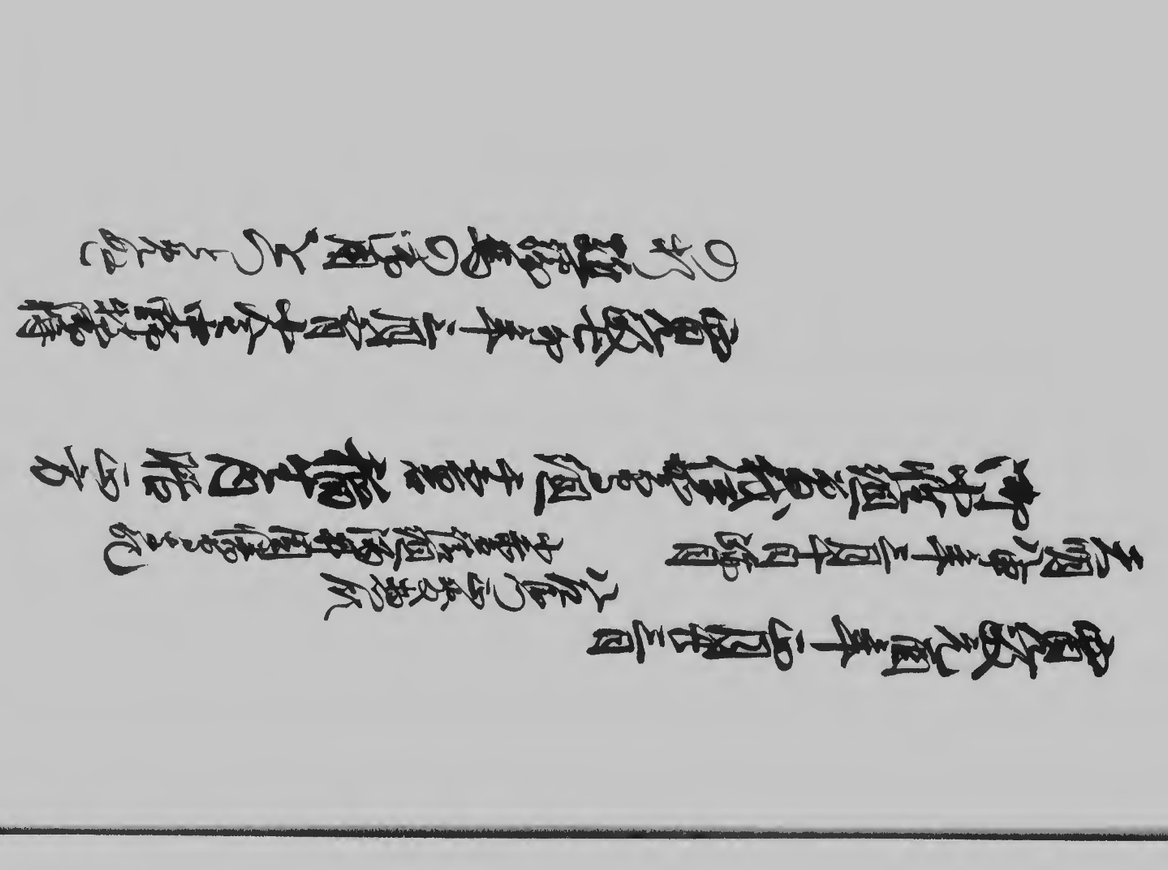


国立公文書館
National Archives of Japan

文化四年辛未

同年三月十六日大雨高流の村々に
連り可申旨
寅年七月十二日大雨洪水高流の時
弘瑞馬とつゝ先
辛酉年五月十日御伝書
同年三月十六日布長左衛門殿
文化四年辛未三月十六日大雨高流
差つき仰付

国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

寛政元酉年十四日十三日

長門守西丸御小姓

天明七未年三月十日海防

大番頭酒井因幡守支配

御小姓須賀我作殿守須　千二百石津軽平太郎殿

寛政九巳年六月十二日　御小姓被仰付候

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政元酉年四月廿三日

三井為三郎良達養子

小姓組番頭安房守支配

天明七未年五月九日婚姻

御小性組書院番導組千三百石 三井芳三郎良豊

改名女

寛政二戌年三月十三日死二十八歳

寛政元酉年四月廿三日

父税信銃次男書院
小普請信組書木依(?)子

御小姓組曾我伊勢守組　無勤　千石　内藤江戸(?)信嶋

寛政三亥年九月廿五日大的浩(?)之の
村上に達して時服二を賜ふ

寛政六寅年四月廿日麹町元山王乃
邦(?)整(?)なる

寛政八辰年十二月廿日大川のふぐへ
道遠しか(?)射多(?)和(?)閏月六日

営中に召させて時服三を賜る

文化二癸丑年四月十日稱入當日七ツ前ニ死

寛政元酉年四月廿三日

天明七未年九月十日海内

御中往復賞我侍如新九帝奉文

朝廷宗新九帝昌盛恵欣

崇徳院新九帝崩御

日本九月廿六日瑞祥市後有て獨我之と

獨

寛政二庚申年十月廿六日瑞祥市後有て

明の廿七日當中に亡られて美全に成と獨る

寛政七卯年三月十日中入之御時の付

瑞祥馬と勢む

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政元酉年五月十三日

天明四辰年六月四日跡目

御書院番組曽我伊賀守組　罷帰　諏訪久米之丞實徳

諏訪左兵衛正一惣領

小普請組堀田式部支配

改　左兵衛

備中守

寛政三亥年九月廿五日　大御番組頭乃

射手小刻して時服二を賜ふ

寛政七卯年二月廿二日　小姓組番頭乃

とゝき強弓馬を稽古

寛政八辰年五月十二日　御小納戸

同年十二月十九日　布衣を着る事を許さる

寛政九巳年十二月廿八日　上千番乃

[illegible]

同月十日御帯刀御免被仰付

文化三寅年八月十日御中間

文化四卯年三月十六日御目録[illegible]仰付

御中守と改

寛政元酉年閏三月

[illegible]

寛政二戌年十月[illegible]

御小姓組[illegible]

寛政四子年十二月[illegible]

寛政十子年十月[illegible]

寶永元甲申年四月廿三日

天明八申年七月廿二日表御番

御中奥組寶永元年依信濃高張 大坂京都頼房

政彩寄

寶永元甲申年三月廿日 大御番衆の内

出行物多之事

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政二庚戌年四月二日

家女永房出

西丸御書院番渋谷陽次守組

御小性組大久保豊前守組

寛政六寅年十二月朔日稲葉伊賀守殿

寛政八辰年八月朔日

改伊織

寛文二年四月二日

御中性須之右衛豊前守須三郎左衛門元明

澤尾七右衛門元長妻之

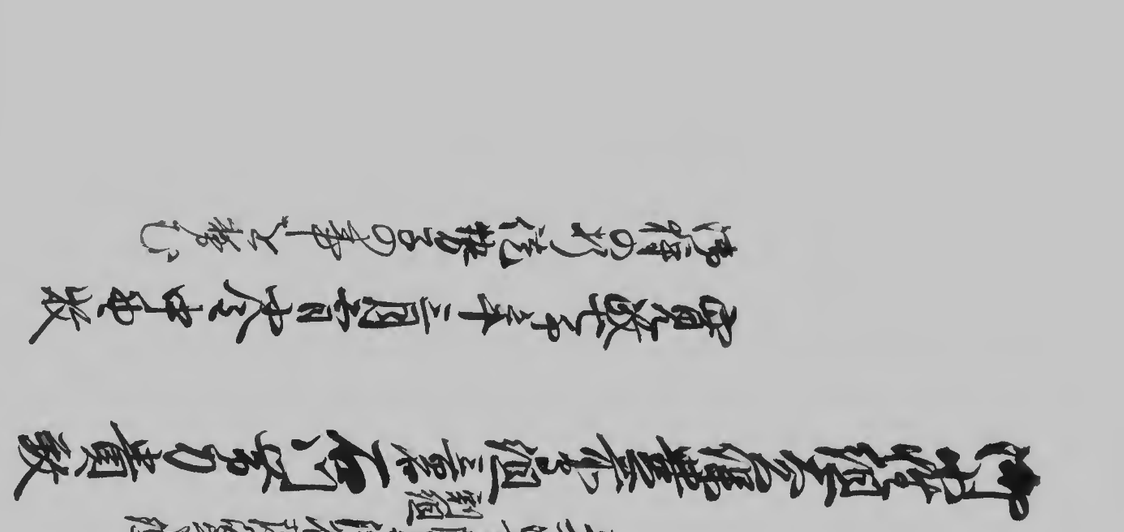
兎角出羽守妻澤尾右衛門之但

寛文二年十二月廿日辞入阿部豊後守殿死

寛文二年　月　日病死

寛文四年四月七日致仕休岩と号ス

寛文十年辛丑六月廿六日死　六十六歳



国立公文書館
National Archives of Japan

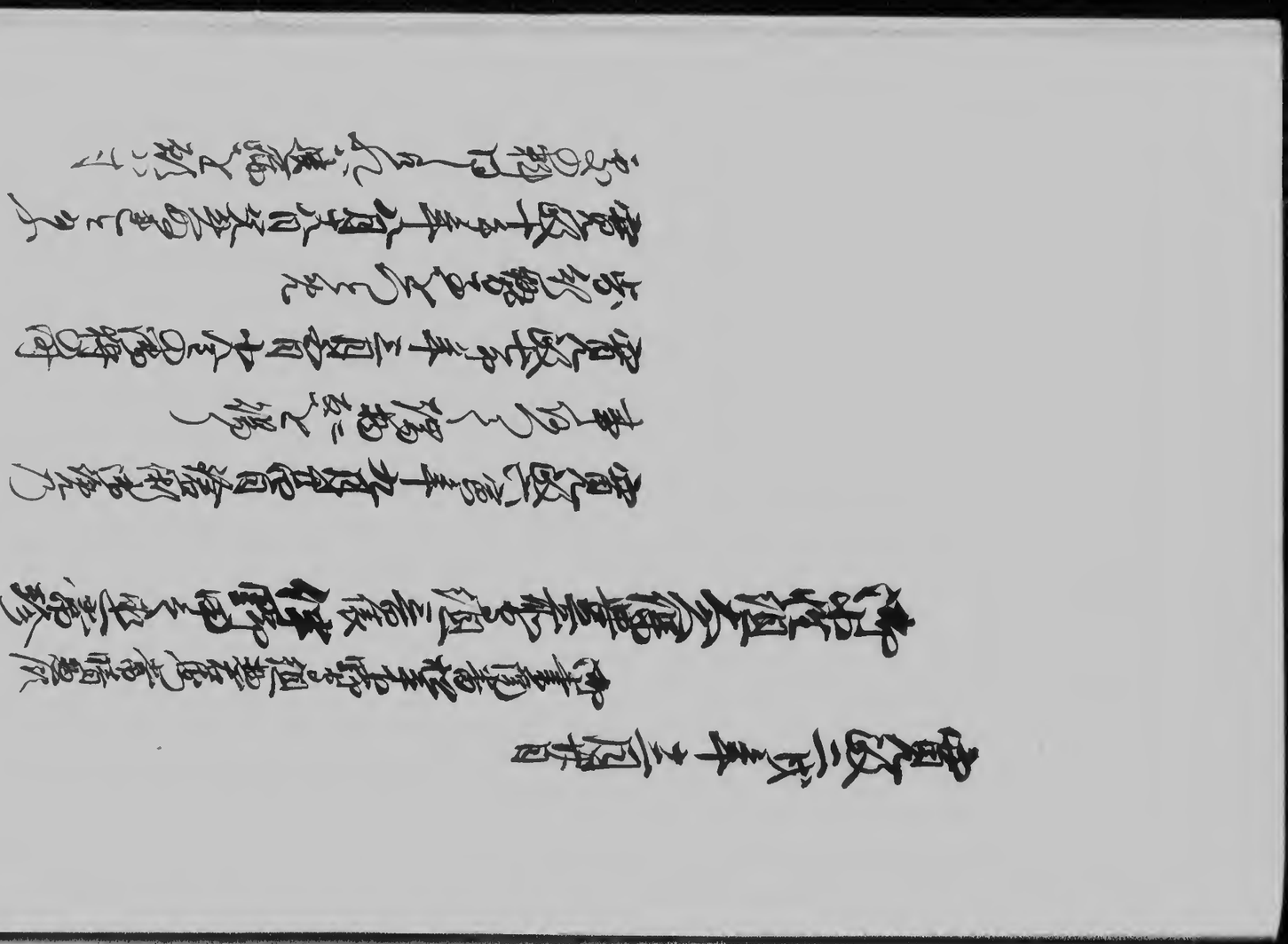
寛政二戌年四月二日

添三郎長子厳想所
西丸御書院番頭曲根大隅組

御小性組大久保豊前守組　三百俵　塚仁十郎　長富

寛政三亥年十月廿二日於上新馬場
小て中的御徳方より瑞ゐ二反を備る
寛政四子年十月十二日亀之助らへ
恵みつゝうらをも御備方に候して
免射候四年六月営中より下されく
門服三を備る

寛政八辰年十月八日称入分當修理之亮方御



国立公文書館
National Archives of Japan

寛政二戊年十二月廿日

御書院番頭兼帯御使番

御中奥番頭兼帯御使番

従五位下

山澤八郎左衛門重孝

従五位下

寛政元酉年十月廿日

後桜町院崩御ニ付朝鮮馬場出て弱射

仕候ニ付て明の十九日吉ゟ出て茂全

校之儀

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政七卯年八月十四日病死致仕
[illegible]

寛政七卯年十二月十九日死 三十二歳

寛政三亥年四月十二日

安永八亥年十二月十日侍初御目見御書付
[illegible]

御小性頭取 [illegible]

二百俵 高田中務義章

改 [illegible]

同日御小性頭取 [illegible]

寛政三年九月廿二日

大帝書御代忠和奉ル

御中付須賀源豊吉ヲ通 三宅儀 梶久左衛門忠師

同日松平内匠頭ヲ以テ御伺ヒ

寛政元年九月廿七日 京鹿沼藩乃

対馬ニ到テ預ケ物ニ付

同年十月廿九日 乙物委

寛政元年正月十九日 叡御沼藩ヘ

ワタシ預ケ物ニ付

同年九月廿八日 沼藩ヘ対馬ニ達ス

時服二領

寛文十年六月朱二日 御小袖

同年十二月十八日 御表之通

寛文二癸卯年十月十六日

御書院番長谷川藤広 御小姓組 藤堂守安 藤原

御小姓組大久保豊後守 三宮儀 水野甚六郎守之

藤井昌名

寛文元丑年閏十二月六日 清水場所乃

射場に列して時服二領を賜る 同月十八日

當中に百疋宛て黄金二枚を賜る

寛文六寅年十月五日 本丸の御能に

清敬寺の打鳴一組射場 同月十三日

當中に百疋宛て時服二領を賜る

寛文八申年十月二日 大納言殿の

享和二戌年

射に列して陪臣となる

寛政十巳年西丸御射場始の射に列して陪臣となる同月

八日宮中に於て美人坂を拝する

寛政十申年三月十日海内巡石

見之の命儀八逗留

同年九月晦日大納言様の射に

列して陪臣となる

享和二戌年七月十日御中奥

同年十二月

同年同月

寛政五丑年九月十八日

天明二寅年閏十月六日

[illegible]

雅楽助 [illegible]

[illegible]

寛政七卯年三月十日 [illegible]

[illegible]

寛政九巳年十二月十八日 中興書書

文化元子年十二月十三日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文化九申年九月十日死罪三名

寛政元年九月十八日　七万六千百　内　六万六千百　勝方　奉行

寛政元年十二月廿九日清水　少養院組　石河土佐守支配

御出張組　千石　大久保豊後守　七万八千百　勝方

寛政七卯年三月晦日　大久保御出張の時

強盗五人と磔も

同年十月十日　強盗五人　獄門

死罪

寛政十年　三月朔日　大久保御出張の

村々に列して付届之儀

享和二戌年閏四月朔日　清水御廟

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

文化七年三月廿五日西脇の山里にて
大納言様の御[illegible]に付惣[illegible]
[illegible]

文化十四年三月廿二日御傳書

同年三月廿二日布令[illegible]

文化十四年二月八日御同[illegible]

同年三月廿日濱[illegible]用[illegible]
[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政七乙卯年付書

寛政二庚戌年宵月吉日

杉田房成奏聞

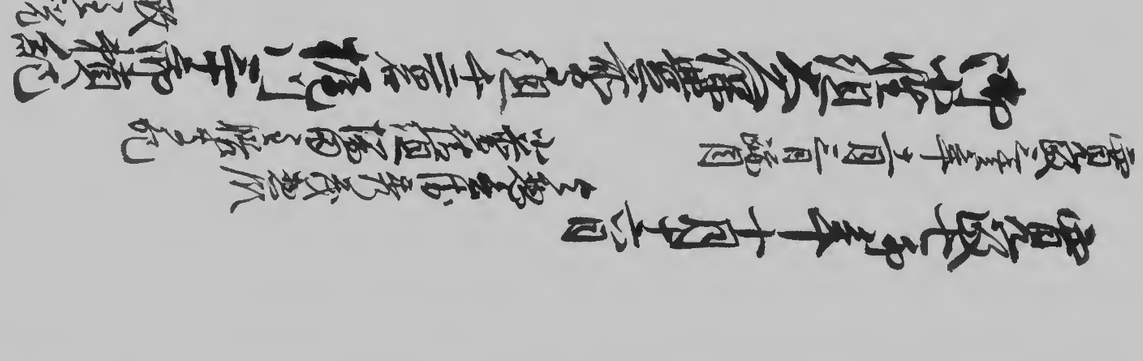
小菅信須清野俊成

御書信須之孫豊春須之五世孫 村越義勇成芳

寛和元酉年六月二日時刻采生誓願

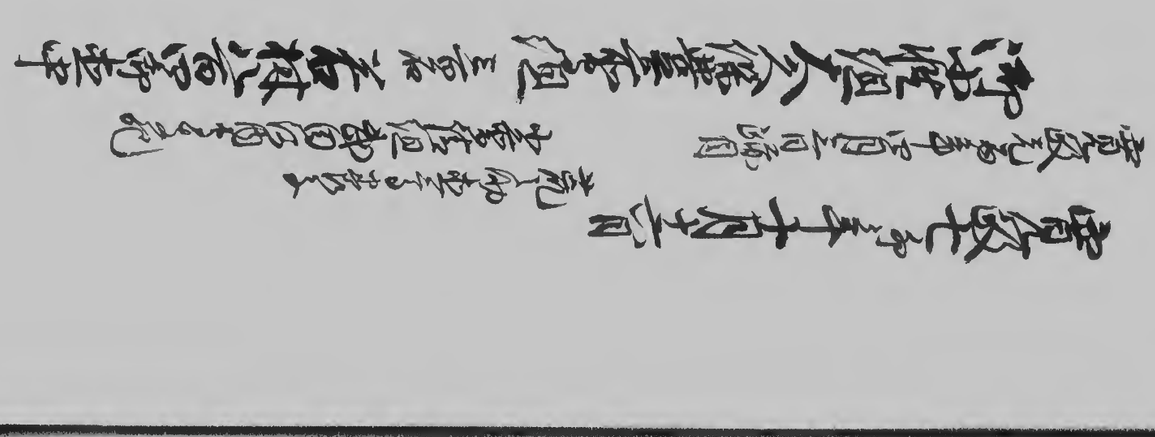
うち七年後を中七年とし引て二百後

小成法師元とこの二百年八後二年八返り生る

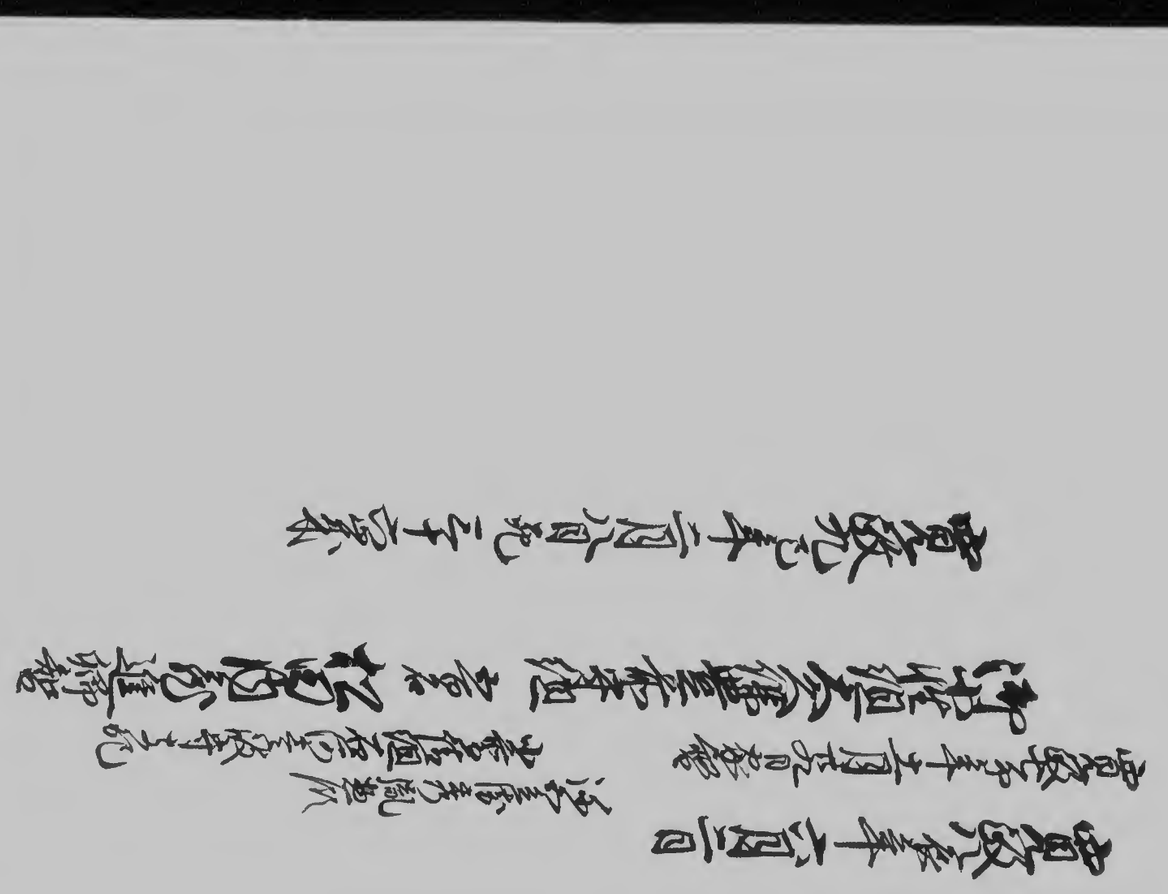


国立公文書館
National Archives of Japan

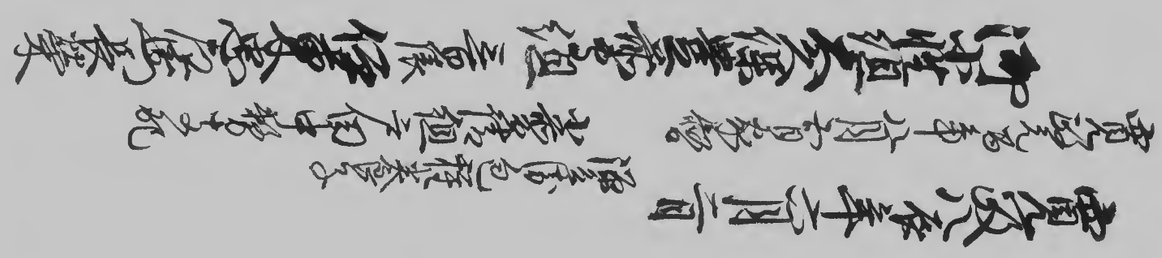
国立公文書館
National Archives of Japan



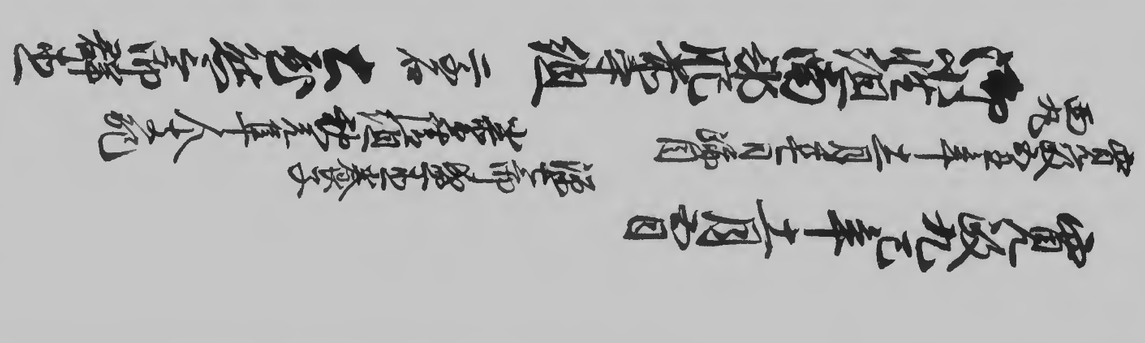
国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan



国立公文書館
National Archives of Japan

寛政九巳年十月晦日

寛政八辰年十四日ヶ条御書
西九

長門国忠敬出羽
蝦夷地測量長門守士紀

御出羽須南部花巻領 千石

大久保長門守忠義

寛政九巳年十月廿日

寛政元年三月廿日より

西九

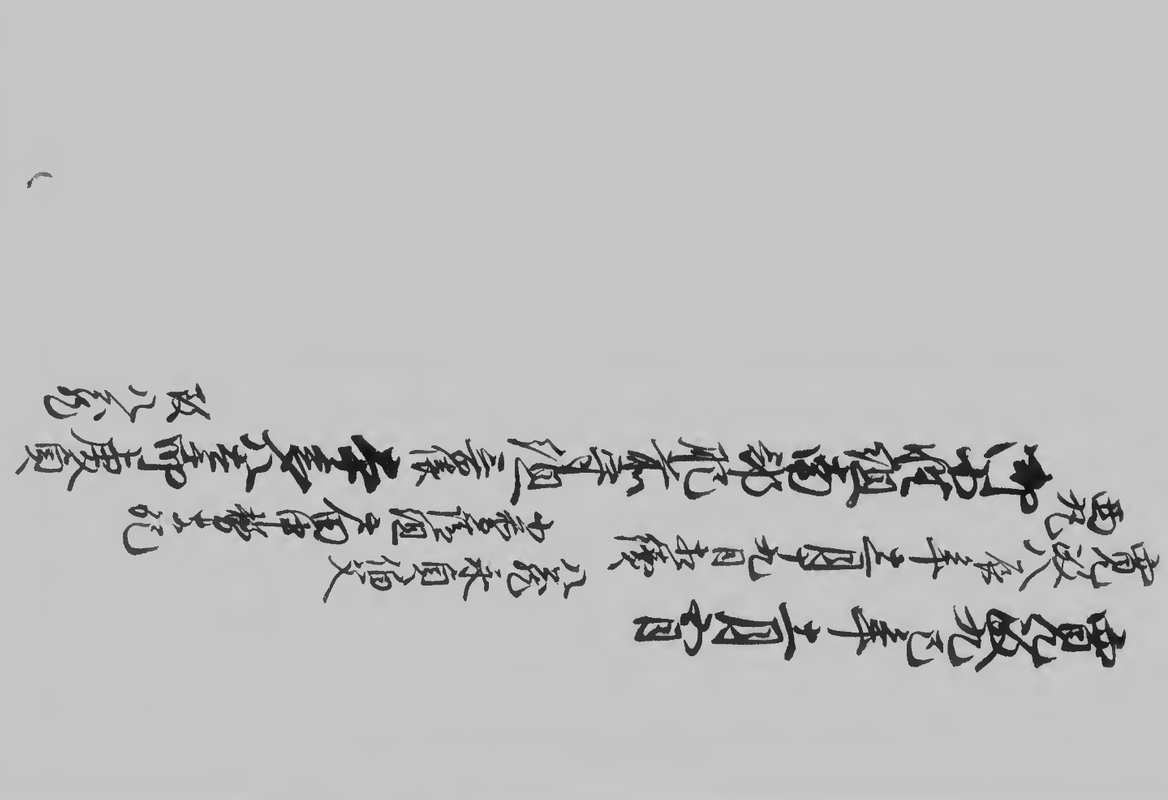
中山道南部駄荷寺領八百石

西国兵庫種取

改兵庫御

兵庫種取領

中山道海品相撰中支配



国立公文書館
National Archives of Japan

寛政十年壬午四月十日

寛政五丑年十二月廿七日薄

西九

御小性頭南部肥前守殿　宣名　柿村千之助泰根

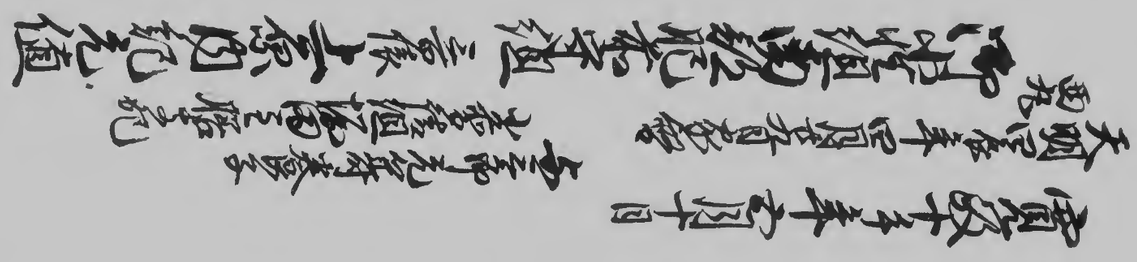
平右衛門泰頼弟

出羽守殿伝師肥前守殿

改平右衛門

文化二丑年四月廿六日実義院流鎗術

師範者ニて獨免ニ成る



国立公文書館
National Archives of Japan

寛政十年三月廿七日

冥

御小性組南部肥前守組　三番後　水野觀蔵勝善

後ろ石

清光ヶ丘水野筑前守勝義邸

京和二戌年七月廿三日家督ヶ石

是ヶ丘の三番後八父ヶ老と書ヶ料よ

備る

寛政十一年四月廿九日

西九

御中住組南部花巻組　三番後　坂井千之助成貞

同年十月廿二日父矢ぬきし後少事の
料同〜ゟ遠流ゟ彼ハ
享和元酉年四月廿日　一刀流也流
剱術　謙室義院流槍術　記倒流柔術
御使者ゟ獄ゟ獄ゟ
同年同月廿一日　四物御使者ゟ
獄ゟ獄ゟ

享和三癸亥年三月廿六日大御番仰渡方
対馬に到して時服二を給る

寛政十二申年三月廿九日
寛政元己酉年八月晦日家督
西丸
御小姓組阿部志摩守組
三百石
中根喜兵衛正頼
内拝米四十石
享和三癸亥年閏五月廿日隠

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan